

# 平成28年度 両荘中学校 学校評価

A できている B だいたいできている C あまりできていない D できていない

領域	評価項目	評価	自己評価の顕著な結果・意見等	学校関係者からの意見等	改善策
学力向上	「学習意欲を高めるためのわかる授業づくり」	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「指導方法の工夫に努めた」「授業形態、個に応じた指導に努めた」教師は、いずれも昨年度を上回った。</li> <li>保護者の約70%が「学校はわかりやすい授業を行っている」と評価し、昨年度より上回った。</li> <li>生徒の90%が「楽しくわかりやすい教科や授業がある」、約80%が「授業を通して、興味関心を持ったことがある」と答えたが、学年に差がみられ、さらに授業の改善が必要である。</li> <li>「学習面のわからないことは、自分で調べたり、先生や友人に聞いたりする」と答えた生徒は約80%で、お互いに学びあえる学習環境の整備や授業形態の工夫をより一層推進する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者として「学校はわかりやすい授業を行っている」と評価したのは、子どもが家庭で楽しそうに習ったことを話す回数が増えていると感じたからである。</li> <li>「授業を通して興味や関心を持った」という生徒アンケートでは、2年生に課題があるように感じられ心配である。</li> <li>「わが子は学校での学習内容をおおむね理解しているか」の問いに、保護者の約40%が否定的である。保護者として、つい点数だけで判断しがちになったり、わが子への期待から、まだできるはずだと思ってしまうため、どうしても肯定的な回答をしにくくなっているのではないかと感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、授業の工夫に取り組みたい。教師主導型の授業から、生徒による討論やプレゼンテーションなどを取り入れた活動時間が保障される授業への転換に努める。</li> <li>わからないことを、先生や友人に気軽に聞ける学年やクラスづくりを推進する。</li> <li>授業の中で意見交換する機会を増やす等、互いに学び合える場面をとり入れた授業展開を工夫する。</li> </ul>
	「自主的・主体的な学習習慣と基礎学力のための家庭学習の定着」	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「家庭学習を大切にしている」と答えた生徒は約70%で、昨年度より僅かではあるが上回った。また学年差が認められ、課題が残る。</li> <li>ほとんどの生徒が「授業の用意や持ち物をそろえて登校している」が、実践できていない生徒については、学級担任や教科担任と家庭との一層の連携が必要であると考えられる。</li> <li>「基礎学力充実のため、個別の指導に努めている」と回答した教師は70%に満たなかった。また、生徒の約20%が「教科書等の内容が理解できていない」と回答し、保護者の約40%が学習内容の理解が不十分であると回答している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中に先生に話していた雑学が、家庭で話題になることがある。今後も知識が広がり、興味を持つ機会を増やしてほしい。</li> <li>友達との会話がメールやラインに偏り、実際のコミュニケーションが足りていないように感じる。普段から友達だけでなくいろいろな人と話をすることで、新しい友達ができたり、視野が広がり、興味を持つことにつながるため、共同的な学びの推進をお願いしたい。</li> <li>夏休みに、各部で活動の前後に勉強の時間をとってくださったことは、とてもありがたかった。</li> <li>宿題がもっと多くてもよいと感じることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>短縮期間や長期休業期間での「個に応じた指導」を引き続き推進する。</li> <li>個別指導や相互チェックを取り入れるなどの授業形態を工夫することで、基礎学力の定着を図る。</li> <li>生活ノートで「個に応じた指導のツール」として幅を広げるなど、活用の仕方を改善する。</li> <li>「学習内容を十分に理解できていない」生徒、「判らないことを自分で解決できない」生徒、「家庭学習が不十分」な生徒等に対する「個に応じた指導」をさらに推進する必要がある。</li> </ul>
規律ある生活	「望ましい生活習慣の育成」	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>90%以上の教師が「生徒指導上の課題に対する共通理解と同一歩調での対応に努めている」と評価した。</li> <li>生徒の約80%が「学校生活は楽しい」、約90%が「きまりを守って生活している」と答え、学年の進行にともない肯定率が上がっている。また、ほぼ全員が「あいさつや返事ができる」と答えたが、教師からは「低調になりつつある」との懸念もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつは、中学校に入学後、みちがえるように大きな声でできるようになった。</li> <li>一部生徒に自転車の運転マナーの悪さがみられる。</li> <li>相対的には、望ましい生活習慣が定着しているようであるが、個人的に手立てや支援を必要とする生徒がいるのではないかと感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登下校の安全指導や生徒会発信のあいさつ運動を継続するとともに、地域や家庭との連携をより一層深化させる。</li> <li>公共のルールやマナーを身につけさせるため、粘り強く指導を継続する。</li> </ul>
	「生徒理解と信頼関係づくりのための相談活動や個別指導の充実」	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の約80%が「不登校生徒に対する積極的理解ときめ細かな支援に努めている」と評価をした。</li> <li>「自分の意見が言いやすいクラスである」との肯定的回答は約75%で、学年間に差が認められるものの改善の傾向が見られた。</li> <li>90%以上の保護者から「気軽に先生に相談できる」と評価されているが、生徒の「相談できる先生がいる」との肯定的回答は約60%で、信頼関係構築に向けて方策を練る必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒と教師の信頼関係を高めるためには、家庭の協力が大切に思われる。</li> <li>教師が生徒に寄り添うことで、信頼関係が改善するのではないかと感じる。</li> <li>休憩時間や昼休みに、先生方が職員室を離れ教室や廊下等にいることで、互いに声を掛け合うことができるため、生徒と教師との距離が近くなり非常によい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域や家庭から忌憚のないご意見がいただけるよう、信頼関係構築に向け努力する。</li> <li>休み時間を有効利用して、一人一人に寄り添う生徒指導を推進する。</li> <li>「ノ一部活デー」を活用し、補習や進路相談などの個別指導の充実を図る。</li> <li>教師の業務改善を推進し、生徒との信頼関係を構築するための時間を確保する。</li> </ul>
	「行事や部活動による良好な人間関係づくり」	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「生徒会活動の充実」に努めている教師が昨年度に比べ20%程度減少した。また、生徒の「生徒会の一員として協力している」との肯定的回答率は約70%であった。生徒会活動に係る教師の共通理解を図るとともに、生徒に対する具体的な活動方針を示す必要がある。</li> <li>「地域の行事やボランティア活動に積極的に参加した」と答えた生徒は約60%であった。昨年度指摘された「部活動単位でのボランティア参加」等を含め、より多くの生徒が参加するような手立てを考えたい。</li> <li>生徒の80%以上が「部活動は楽しい」と答えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒は自らが生徒会の一員であるという認識が薄いのではないかと感じる。</li> <li>生徒数の減少に伴い、各地区単位で活動を行うことが難しくなっている。</li> <li>生徒が各地域に出てボランティア活動を行うことは非常にありがたい。</li> <li>保護者と生徒と一緒にボランティア活動もよいのではないかと感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各行事等の目的や内容を生徒と教師が共通理解し、系統的・計画的な実践を通して、生徒・教師間の信頼関係を構築する。</li> <li>学校行事を精選し、達成感や達成感を味わわせる活動を取り入れる。</li> <li>ボランティア活動や生徒会活動の意義を生徒と教師が共通理解し、従来の形式にとらわれず、様々な形のボランティア活動を推進する。</li> </ul>
豊かな心・豊かな環境	「道徳の授業と人権教育」	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の「他の人のためになることをしよう」「人が困っている時は助けよう」「相手の気持ちを考えて人と接しよう」との肯定的回答は、いずれも80%以上で、全体的には道徳的意識は育っていると思われる。</li> <li>「周りでいじめがないようにする」「やさしい声かけや他の人のためになることをする」などの道徳的心情や行動については、学年差が認められたが、昨年度に比べると向上した。</li> <li>「周囲の間違った言動を注意したり、教師に報告する」に対する肯定的回答は50%であり、教師や仲間との信頼関係を早急に回復することが求められる。</li> <li>90%以上の保護者が「自分の子が道徳観や人権感覚を身に付けている」と答えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭では、道徳の授業内容等についての会話は少ない。授業時数や学習内容等、知る機会がほしい。</li> <li>「いじめ」が気がかりである。</li> <li>ネットやラインでのつながりが増えており、学校外の生活での問題やトラブルについて、先生に報告しないこともあるのではないかと感じる。</li> <li>親の感覚としては、2年生は良くなってきていると思っていたが、アンケートの結果が良くないように見える。現状はどうか。</li> <li>不登校の生徒が心配である。原因が気になる。</li> <li>教師の褒め方やしかり方に対して、少し納得いかない生徒もいるようである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳や人権学習について、学級通信や学年通信で授業内容や生徒の感想を紹介する等、啓発や情報発信の工夫と改善を行う。</li> <li>生活ノートから浮かび上がる日常生活の課題や成果などを共有することにより、いじめや不登校などの未然防止、早期発見・早期対応に努める。</li> <li>2年生に限らず、アンケート結果は生活の一場面である。個別の支援や指導が必要な生徒については、教職員の共通理解を十分に図り、基礎学力や生活習慣の定着と自尊感情の高揚を目指す。</li> <li>地域でのボランティア活動の意義を明確にして、生徒達がより自発的に参加する気運を高める。また、部活動単位でのボランティアへの参加を計画する。</li> </ul>
	「心和む美しい学校を目指した環境づくり」	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての教師が「美しい学校になるよう、環境教育に努めている」と回答し、教室や周囲の環境整備を積極的にすすめている。</li> <li>保護者の90%以上が「学校はきれいで落ち着いた環境になっている」と答えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「両荘バラ園」をはじめ、校地緑化等の環境整備に期待している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教室や校地の環境整備に向けて、生徒への声かけを積極的に進め、生徒会主導によるボランティア活動等、環境整備への意識と実践力を高める。</li> </ul>
信頼される学校	「学校生活の公開と広報活動の充実」	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほとんどの教師が「学校と家庭の連携を深めるために保護者への誠意ある対応をしている」と答えており、90%以上の保護者が「資料を通して、学校の指導方針や取り組みがよくわかる」と評価している。</li> <li>「学校からの配布物やプリントをお家の方に渡している」生徒は80%未満で今後の課題としたい。</li> <li>保護者の約90%が「学校から配布されるプリント等の文書は、わかりやすく丁寧なものになっている」と評価した。</li> <li>昨年度の提案であった「生活ノートの有効活用」については、積極的に行った学級担任が増えた。「ホームページのカウンター」については、設置条件が難しく実施できていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級通信や学年通信などの内容を見ると、学校の情報はよくわかる。</li> <li>生活ノートを有効に活用している担任が多い。</li> <li>成績表をテスト後すぐに出してもらい、子どもの成績がよくわかる。</li> <li>翌月の行事予定が早めに分かれば、保護者も予定を立てやすい。</li> <li>行事ごとに通信を出していただければありがたい。</li> <li>小学校ではメールによる配信を行っている。中学校でも活用してはどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任が適切なコメントを添えるなど、生徒と教師のコミュニケーションツールとして、生活ノートをより効果的に活用する。</li> <li>保護者へのより確実な情報伝達を行うため、学年通信等の発行方法を見直し、重要な配布物は別途封筒を用意する等、情報が確実に保護者に伝わるよう、生徒への動機づけを工夫する。</li> <li>翌月行事計画は極力早期に、学校行事は極力多く、ホームページ等を効果的に活用して情報発信する。</li> </ul>